

Beyond learning

札幌東高校 第1学年

y=a x aもxも無限大!

演劇 = 探究学習

どんな気づきがあるのか? たくさんの言葉をもらいました!

第3号は、「演劇ワークショップ」の振り返りを共有します。「演劇」と「探究学習」は、一見つながりがないように感じますが、実は、「対話」という点において、共通しています。演劇は、ある問題が生じた時に、価値観の違う登場人物が、自分の考えや他者の考えに影響を受けながら、揺れ動いていく姿を描いていきます。芝居の内容も、価値観のぶつかり合いがポイントになるのですが、演者も、自分の解釈をもとにしながら、他の演者や劇作家との対話によって、創造的に芝居を作り上げていきます。「演劇」は、「対話」そのものから出来上がっているとでもいいくらいです。平田オリザ氏の通信は、このことを説明していました。

「探究学習」は、私たちが直面するさまざまな問題を扱っていきませんが、その問題には、実にたくさんの人たちが関わっています。考えや価値観の違う人たちが出会う中で、いかに本質的な課題を見つけ、その解決を当事者同士で考えていかなければなりません。まさに「対話」がポイントになります。

このことを「演劇ワークショップ」で考えてもらおうと思いましたが、物事をつなぎ合わせて考えるためには、「具体と抽象をつなげる力」がなければ、なかなか理解することはできません。みなさんは、「演劇ワークショップ」をどのように捉えたのでしょうか?

アンケートでは、次のことについて振り返りをしました。以下、アンケートの結果をお知らせします。256名の人が回答してくれました。

質問1 「演劇ワークショップ」は、今後の学習や学校生活に役立つと思いますか?

質問2 質問1で「とても役立つ」「場合によって役立つ」と答えた人にお聞きします。どんなことに活用できると思いますか。

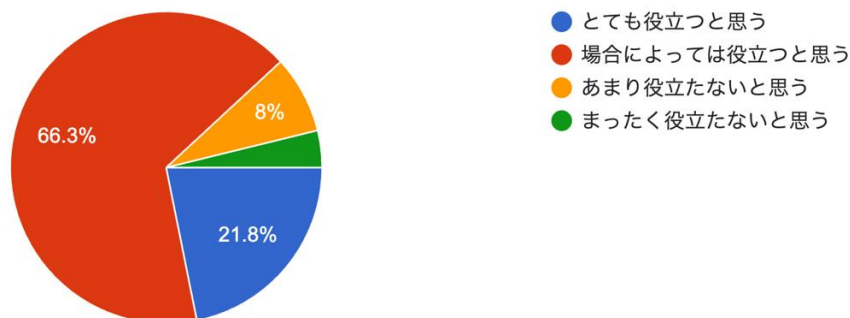
質問3 質問1で「あまり役立たない」「まったく役立たない」と答えた人にお聞きします。どのような支援があれば役立つことができるでしょうか。

質問4 「演劇ワークショップ」の体験を振り返り、どんな場面で、どんな気持ちを感じましたか。自分とのつながりがわかるように内省してみましょう。

アンケートの結果

質問1 「演劇ワークショップ」は、今後の学習や学校生活に役立つと思いますか?

261件の回答



「とても役立つ」21.8%、「場合によっては役立つ」66.3%と、多くの人何らかの形で「役立つ」と考えているようです。「あまり役立たない」8%「まったく役立たない」3%と1割ほどの人は「役立たない」と感じています。

では、みなさんは、どのようなことに役立つと感じたのでしょうか。みなさんの多くが「**発表したり人に説明をする時に役立つ**」とか、「**人と協調して物事をやり遂げる時に役立つ**」とか、「**人との関係を深めたりコミュニケーションを取る時に役立つ**」と回答しています。

- ・他人と協調すること。
- ・初めて話す人に対して自分の気持ちなどを伝える時。
- ・これからグループ学習などをするうえで自分の考えを表現し、伝えることは必ず必要になってくるので役立つと思う。
- ・友達や家族などと会話をするときに相手のことを理解したり、相手とよく分かり合うことに活用できると思います。
- ・意味を受け取り手に考えさせるくぐりや、普段のコミュニケーションなどに活用出来ると思う。
- ・物事は見る角度によって全く違う別物になるということは、すべてにおいて裏側が分かるきっかけになると思います。
- ・私は、人の前で話をしたり、代表などでみんなをまとめることを何度も経験してきたのに、声を出すことにはとても勇気が必要で、縮こまってしまいます。今日の時間で、初めはみんな声が小さかったけれど、後半はどんどん大きくなって行って雰囲気も一体感が生まれていたり、私たちの学習で足りないことや詩の表現を感じて、伝えることをどうして怖がっていたんだろうと思うようになり、発言する場面でとても役に立つと思いました。

続いて、「役に立たない」と考えている人の回答を見ていきます。問題点としては、「**何を伝えたいのか狙いを明確にしてほしい**」というものがたくさんありました。また改善策として、「**生徒が参加する時間をもっと増やすこと**」とか、「**日常生活につながりやすい内容にすること**」などの指摘がありました。

- ・講師の方が何を伝えたいのかを明確にし、根拠ある説明を行えるよう講師自身が努めるよう本校の教職員が助言すること。また本校の教職員が講義のサポートを行うこと。
- ・今日の授業はただ言う、叫ぶというものばかりだったので、それこそ演劇などをやってみたりすると、より日常に近い状態で「表現」が学べるのではないかなと思いました。
- ・私は、この講座の中で、文を読むことを通して、講師が何を伝えようとしていたのか、あまり分かりませんでした。しかし、何もわからずに終わるわけにはいかないと思い、あらかじめ配布されていたプリントを読んだところ、講師がどういったことを僕らに伝えようとしていたのか、少しわかった気がしました。おそらくほとんどの人が、今回の講義の真髄を理解していなかったと思うので、講義の前に、これからの「総合的な探究の時間」ではどういったことをするのか、そのためにこの講義ではどういったことを教えてもらえるのかという説明があれば、今回の講義がより有意義なものになったのではないかと思います。

最後に、**自分の学びへの影響**について整理をします。本当にたくさんの気づきがあったようで感動しました。限られたものしか転載することができませんが、是非お読みください。

- ・日本語の不確かさを理解し、人とのコミュニケーションを楽しんで行きたいと思った。
- ・もっと積極的になればよかった。ネガティブになってしまって悔しい。
- ・自分としてはあまり話に溶け込めず、全体的につまらない思いをしていたので、つながりを見つけて話を自分に取り込めるよう、経験を積み重ねたいと思います。
- ・日常と演劇は共通するものがあると思った。声を出すことの大切さを改めて実感した。言葉にしないと伝わらないことはたくさんあるから「言葉」を大切にしたいと思った。
- ・少し難しく感じたが、今までの視覚だけの情報ではなく、五感を通して考えそれを表現できるようになると、自分の能力が一層高まりそうだなと感じた日本語の曖昧さについて改めて実感することができ、自分たちは面白い言語を使って過ごしているのだと思った。日本語で表現されたことの受け取り方は見聞きする人次第という所が難しいのだとわかった。